

コンポスターの使い方

【コンポスターの特徴】

コンポスターは発酵活性微生物の力を借りて有機質の生ごみを発酵分解し、生ごみの減量化と堆肥に変える生ごみ処理容器です。生ごみとともに落葉や雑草を一緒に入れ、半年から1年かけてじっくり堆肥を作ります。容量が大きく、生ごみが多く出る家庭に向いています。

1 使用開始前・設置

- 設置場所は、日当たりや水はけ、風通しの良い場所が適してします。コンポスター内の温度が高くなると微生物の活動が活発になり、ごみの分解が早くなります。
- 深さ30cmくらいの穴を掘り、コンポスターを地中10cmくらいに埋めてください。

2 使用方法

- 台所のごみ、有機質のごみであればコンポスターへ投入できます。
- 水分は地中に吸収されますが、多すぎる場合は枯葉や藁などを投入してください。
- 生ごみの発酵を促進させるため、生ごみ投入に合わせ、ときどきスコップ1杯ほどの土を入れて、よくごみとかき混ぜてください。
- 生ごみが一杯になったら容器を引き上げて、未完熟の生ごみは移設したコンポスターの中に再投入してください。

3 ワンポイントアドバイス

- 生ごみはできるだけ細かく切って入れると分解が早くなります。
- 悪臭や虫が湧くのを防ぐために、生ごみを投入したとき、最後に乾いた土で覆っておくことがポイントになります。
- 乾いた土が不足する時は、落ち葉、雑草、ぬか、藁などの代用も有効です。土と併用すると効果的です。
- 土で覆っていても、夏にはハエやウジ虫が湧くことがあります。
- 水分の多い生ごみの投入が多かったり（特に夏場）、かける土が濡れていたり、かける土の量が少なかったりすると、においや虫の発生がしやすくなります。
- 米ぬかや廃食用油は発酵を促進させる効果があります。
- コーヒー殻は防臭の効果があります。
- 土の中の微生物とともに、虫も生ごみを処理してくれるものなので、嫌わずに乾いた土や落ち葉をごみが見えないようにかけて、フタをきちんと閉めましょう。
- ミミズがたくさん見られるようになったら、堆肥化がうまく進んでいます。
- コンポスターは複数あると便利です。